令和5・6年度 第6回高崎市公民館運営審議会 会議録

開催日時 令和6年11月26日(木) 午後1時30分から2時52分

開催場所 高崎市中央公民館 集会ホール

議題 令和5・6年度高崎市公民館運営審議会の提言(案)について
提言に関わる事例の紹介

公開・非公開区分 公開

出席委員 (12人)

佐藤芳正委員 ・ 原徳応委員 ・ 串田昭光委員 ・ 三澤憲一委員
大河原吉明委員 ・ 櫻井登委員 ・ 植原孝行委員 ・ 原田和之委員
山口堅二委員 ・ 秋山美和子委員 ・ 上條ちづ子委員 ・ 井澤千代美委員

欠席委員 (4人)

星野雅代委員 ・ 小高広大委員 ・ 小屋美香委員 ・ 内田祥子委員
小見勝栄委員 ・ 丸茂ひろみ委員 ・ 品田佳江委員 ・ 岡部敬子委員

成立 高崎市公民館運営審議会規則 第4条第2項による

事務局出席者

山口順子中央公民館長・川嶋昭人公民館担当部長 齋藤崇夫教育担当係長
江積利雄次長・大村政彦次長・塚越康弘次長・平石貴文次長・伊藤俊一郎次長
武政文隆次長・貫井賀津夫次長・岡田清香主任主事・古川和江行政嘱託

傍聴定員 5人

傍聴者数 0人

所管部課名 教育部高崎市中央公民館

令和5・6年度 第6回高崎市公民館運営審議会 議事録

議事

1 令和5・6年度高崎市公民館運営審議会の提言（案）について

会長： 提言の作成にあたり、前回7月の審議会で提言の柱となる項目を定め、その後、内容について各委員からご提案をいただきました。いただいた内容を項目ごとにまとめたものが「令和5、6年度高崎市公民館運営審議会提言書に係る意見について（まとめ）」となります。これを基に専門委員会を9月と10月に開催し、提言の案をまとめました。本日はこの提言の案について、委員の皆様からご意見をいただきたいと考えています。初めに副会長より、その提言（案）について説明をいただきたいと思います。

副会長： ご指名ですので、ご説明させていただきます。まず、7月18日開催の公民館運営審議会におきまして「提言の柱」をご承認賜りました後、公民館運営審議会委員の皆様から各柱の中に登載していくべき提言の内容についてご意見を寄せていただきました。それが「令和5、6年度高崎市公民館運営審議会提言書に係る意見について（まとめ）」です。こちらの方は項目ごとにまとめさせていただきました。

その内容を基に、まず、私の方で提言（案）のたたき台を作成いたしました。

その後、先ほど会長の方からもございましたが、9月、10月と2回にわたりまして専門委員会を開催して、専門委員が、そのたたき台と審議会委員のみなさまからのご意見の原文のすり合わせを行い、重複している部分を調整したり、補足説明を加えたりしながら修正して参りました。

会議の場以外でも、メールでのやり取り等を含めまして、何度も検討いたしまして、修正を加えながら綿密に準備を進めて参りましたところがございます。

提言（案）の内容につきましては、各公民館へのアンケート調査を実施した上での提言であるということから、各柱に関して、公民館の職員が課題として認識をしていること、逆にコロナ禍を経験することによって生まれた良い変化などについて「調査結果から」として最初にまとめて登載してございます。提言（案）をご覧いただければと思います。

その上で、公民館運営審議会として提言すべき内容を「今後の公民館運営への提言」として記載してございます。

この作業を進める中で、高崎市内の公民館においてコロナ禍を経験したことを

通して新しい取組みが多数見られているということがわかりました。

何人かの委員さんからは、他市の先進事例等の紹介を登載したらどうかとの提案もいただきましたが、せっかく本市の公民館で良い事例があるのであれば、提言（案）に盛り込むことで、こうした取組みを積極的に広報するとともに公民館運営審議会として公民館を応援していきたいと考えました。

本日、「参考事例」として提言（案）に登載しました事例を、お2人の公民館次長さんから発表していただけるということですので、大変楽しみにしております。

本提言の「はじめに」と「むすびに」は、提言（案）の本文を作成した後に、串田会長にまとめていただいたものでございます。

公民館運営審議会委員の皆様方には、提言（案）をご覧いただきまして、忌憚のないご意見を出していただければと思います。

専門委員会の委員が出席しておりますので、関係するご質問に関しましてはお答えさせていただきます。

また、提言（案）を寄せてくださいました審議会委員の皆様も、もし補足説明等がございましたら、この場でよろしく願いいたします。

私からは以上になります。どうぞ、よろしく願いいたします。

会長： ありがとうございます。ただ今、副会長より説明があった通りでございます。

専門委員以外の方は初めてご覧いただくと思いますので、ここで10分ほど時間を取りまして、目を通していただければと思います。その後、内容についての協議に入らせていただきます。よろしく願いします。10分ですが、その時計で55分までにさせていただきます。じっくりとお読みいただいて、ご意見いただければと思います。よろしく願いいたします。

会長： それではお時間が参りましたので、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。よろしく願いします。

学識経験者 B： 10分あまり読ませていただきました。そこでちょっと申し上げたいと思ったことがあります。この提言書の「はじめに」の下から3行目の「また、想像を超える危機に対応した体験は、公民館の役割である「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」を通した具体的な事例となり得ます。」これはその通りだと思います。そこで、ちょっと思ったのが「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」これは意味は分かるのですが「つながり」とは具体的に何なのかなと思ったんですね。想像するところ、地域住民の個々の人びとのつながりということなのかなと、そう解釈してもいいですか。こちらが1点です。もしそうだとすれば、何のつながりなのかな補足した方が良いのかなと思いました。

それから最後のところ、13ページの「むすびに」というところですが、一番下の行で、その上から読みますと「提言は、公民館が地域社会においてどのように変化に適応し、役割を果たすべきか模索するための大切な資料となると考えています。」とあります。この通りだと思います。ここでちょっと「はじめに」のところと関連付けて考えると「どのように変化に適応し」は「適応し」ではなく「対応し」ではないかなと。どんなふうに公民館としては地域住民と向き合って対応していくか。現状で適応してしまう、そういうこともあるでしょうが「対応し」の方が、全体の提言の中身を生かしてくれていいのかなという感想を持ちました。あくまでざっと読んだところでの感想ですので、そんな印象を持ちました。以上です。

会長： はい。一つが「はじめに」の「つながりづくり」を個々、具体的には個人というものをもっと、ということなのでしょうか。

学識経験者B： 多分、そういうことが言いたいのかなと思いました。状況によっては「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」で、人づくりが個々の住民のつながりがあって、地域づくりを進めていくのだろうと思いますので、そうすると表現は別としても、個々のつながりづくりというようなことを、もっといい言い方があればと思いますが、そういうことをアピールするような言い方がいいかなと思いました。

会長： 大きな捉えで、カッコが大きな捉えですよという、そんな中で「はじめに」を捉えたということです。個々も含まれるという、そんなところで理解していただくことかなと考えて、この文章にしました。

2点目の「結びに」のところについて「適応」、「対応」、「はじめに」に整合という意味では、「対応」も有りかなと考えております。ここについては検討したいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、そんな2点についてお話させていただきました。ありがとうございました。

他にありましたらお願い致します。

【意見無し】

会長： 意見もまだあるかと思うのですが、本日いただいた意見を検討し、提言に反映して、次回の審議会も最終案として提案させていただきたいと思います。また、改めてこの後何かご意見が発生しましたら、12月3日（火）までに事務局まで

お寄せいただければと思います。特に様式等はありませんのでメールや電話、FAX
でお願いできれば幸いです。そちらも併せて検討します。今日の提言の案につ
いては、以上といたしますけれども、ご理解のほどよろしく願いいたします。

2 提言に関わる事例の紹介

会長： 続きまして、議題（2）の提言に関わる事例の紹介です。本日は提言の中で参
考事例として掲載する2つの事業について取組みの内容を地区公民館の職員より
紹介いたします。1つが片岡公民館の「ほっと！HOT！Café」です。これにつ
いては、事業を立ち上げた時に片岡公民館に勤務しておりました上郊公民館の次長
にお願いいたします。2つ目としましては、久留馬公民館の「久留馬地区盛り上げ隊」。
こちらについては、久留馬公民館の次長に事例紹介をお願いいたします。

ご指名のあったお二人の次長、よろしく願いいたします。

事務局： 準備しますので少々お待ちください。

なお、現上郊公民館の次長につきましては、片岡公民館在籍時に「片岡ほっと！
Hot！Café」という事業を立ち上げておまして、その際、課題研究での取組み
であったことから、その報告のための資料を少し修正したものを使用してご紹介
させていただきます。

また、その後の久留馬公民館の次長につきましては、今月の8日に関東甲信越
静公民館研究集会という、関東の公民館の研究集会の方で「ICTと公民館」とい
う分科会で群馬県を代表して事例発表を行いましたので、そちらの資料を使用さ
せていただいて、久留馬地区盛り上げ隊を中心に、少しその他の取組みも含めて
ご紹介させていただきます。では、まず最初に上郊公民館次長の方から「ほっと！
HOT！Café」について事例紹介をさせていただきます。

上郊公民館次長： それでは早速、私の方から説明させていただきます。

私からは今から2年前、コロナ禍に実施した「片岡ほっと！Hot！Café」の事例
についてご説明いたします。

この事業は「公民館課題研究」の実証事業として実施しました。課題研究は有
志の公民館職員による自主的な研究活動で「公民館を取り巻く、今日的課題や公
民館の可能性・方向性」を研究する勉強会のようなものです。

ご覧の3館の主事がチームを組み「地域住民が自然に集まる居場所づくり」を
コンセプトに研究と実践を行いました。

研究のきっかけは、ある職員との世間話でした。その職員のお母さんは60代半

ばで認知症を発症したそうです。本来、体を動かすことが大好きな元気なお母さんでしたが、症状の進行とともに次第に自信をなくし、外出するのも億劫になってしまったそうです。でも本当は家族に頼らず自分で買い物したり、自由に楽しむことを求めている、でも上手くできなくて、その狭間で苦しんでいたそうです。

もしその時、ちょっとカラダを動かしたり、自分のことを気軽に喋れたり、家族に頼らず買い物したり。そんな場所が自然と地域の仲間と作れたらよかったのになあ、とおっしゃっていました。

それを聞いて、認知症でも、障がい者でも、誰でも、もっと気楽に、もっと自由に集える場所作りたい。そんな思いから公民館を広く地域住民に開放する事業を考えました。幸いなことにコロナ禍でサークルが解散してしまい、第2・第4火曜日の午後なら公民館の部屋が全部空いています。これを利用しない手はありません。

自由におしゃべりできる Café スペース、健康マージャン、図書室、ポッチャや卓球などの軽スポーツなど、公民館はもともと人が集って楽しめるポテンシャルを持っているのではないか。この公民館の持っている資源を最大限活用しながら全館を地域に開放したら面白いのではないか。狙いは地域住民が自然に集まる居場所づくりを実現することです。今回は、「ほっと！HOT！Café」のなかでも、メインとなる Café スペースの取り組みをご紹介します。

こちらが Café のチラシです。チラシを細かく見ていきましょう。

- ・ 2022年11月8日、13：30～16：00
- ・ 場所は片岡公民館の実習室
- ・ 定員16人
- ・ 参加費 無料
- ・ 対象：地域住民ならどなたでも
- ・ 申込：不要

このように、申し込み不要。参加費も無料。途中参加・退出も自由です。お友達や近所の人に誘われて、ふらっと来てふらっと帰れる。まずは、公民館に足を運んでいただくことが大切と考え、参加に対するハードルを下げることを心掛けました。

続いてこちらです。「香り高いコーヒーやハーブティー、BGMをご用意してお待ちしております。」とあります。今回は、Café の雰囲気を出すことにもこだわりました。

挽き立てのコーヒーをハンドドリップで淹れてみたり、Café ボードを作ってみたり、本日のコーヒーを用意してみたり、数種類の紅茶やハーブティーなどを用意し、普段の公民館とはちょっと違った雰囲気を演出しました。

さて、Café の内容ですが、こちらはチラシの裏面です。拡大します。

- ・ 13：30～14：30「私のリレキ～人生のおすそ分け」

カフェはこのコーナーから始まります。ちょっと読み上げます。

「誰しものが日常生活や仕事のなかで様々な出会いや経験を重ね、人生を紡いでいきます。あなたにとって、ありふれた日常や出来事も他人から見れば新しい発見や学びの宝庫かもしれません。「私のリレキ」は、講師が人生経験や知識を語る、人生の講話です。講師から皆さんへ「人生・知識のおすそ分け」をします。」とあります。

初回の講師は、当時の片岡公民館の三輪館長にお願いしました。「大手百貨店に入社後、主に外商担当として42年間勤務。VIP顧客との商談で体験した驚愕のエピソードとは？外商の心得、成功の秘訣とは？」

どうでしょう？楽しそうですね。ちょっと聞いてみたいと思いませんか？このように、地域には、豊富な人生経験と専門知識を持った人がいるはずですよ。それを発掘し活用するのが、この「私のリレキ」のコーナーです。

ポイントは、地域の人に講師になってもらうこと、そして、講師に次の講師を紹介してもらうことです。

それには「これなら自分にもできる」「次は自分が話してみようかな」と思っていただけるような内容がベターです。講師としてのハードル上げすぎないことに気を付けてみました。新たな地域人材をこれによって次々と数珠つなぎに発掘できるのではないかと考えました。

さて「私のリレキ」コーナーの次は、「ポットラックタイム」です。そちらについて説明します。またチラシに戻ります。

自慢の手料理、家庭菜園で採れたお野菜、食べきれないお菓子など、少しずつ持ち寄って、公民館でカフェを開催。

ポットラックとはあり合わせの料理という意味だそうです。パーティーなどで料理をみんなで少しずつ持ち寄るということです。みなさんの家庭菜園でも夏には食べきれない程のキュウリやナスが採れたりしませんか？そういった余ったものを、みんなで「持ち寄り・おすそ分け」するのがポットラックです。

これは、みなさんが持ち寄ったものを紹介している場面です。自分で作ったお漬物とか、手料理などを他人に振る舞うことは、一種の成果の発表・披露にもなります。作り方を教えたり教わったりしながらお話ができれば、自然に会話も盛り上がります。コロナ禍ということもあり料理の持ち寄りはありませんでしたが、お茶菓子やお家でとれた柿などを持ち寄っていただきました。

このように、ポットラックには、成果の発表、調理法や野菜の栽培方法などを教えあう相互教育、会話と交流のきっかけづくりなどを目的としています。そして、「ほっと！Hot！Café」の運営コスト抑制の意味もありました。Caféを継続的に実施するには、例えば会費制にするとか、地域や企業から支援してもらうなど、運営費を捻出しなければなりません。その課題を少しでも抑えるために、自分たちで、お茶やお菓子を持ち寄るポットラック方式を採用し、運営コストの抑制を

図っています。

最後に、当日の運営体制についてご説明いたします。当日は27人のお客様にご来店いただきました。受付、検温、名札、客席の案内、飲み物・お菓子の提供など、やることはたくさんあります。これを、公民館職員だけで行うことは不可能です。そこで、当日は、お客様にも積極的声をかけ、お手伝いをお願いしました。その結果、民生委員を中心にたくさんのお客様がスタッフとして活躍してくださいました。

実は、事前準備として、民生委員・地区協議体の会議にお邪魔して、協力をお願いしました。どちらの団体も公民館で会議を開催しているので、こういう時、公民館というのは大変便利なところですよ。

お願いした内容は3つです。カフェに「遊びに来てください」「近所の人を誘ってきてください」「できることだけ手伝ってください」そして、このチラシを渡して近所への配布をお願いしました。

スタッフの名札には、お手伝いできること書いてもらいました。裏面には、このようにお手伝いできることを例示してあります。「お買物のサポート」、「ホールスタッフ」など、自分にできることの「持ち寄り・おすそ分け」をお願いしました。理想は、お客様でありながらスタッフであることです。「無理をせずに、自分のできることを、できる範囲で」。何よりも「自分も楽しみながら」お手伝いいただきたいとお願いしました。

さて、これまでのお話の「私のリレキ」「ポットラック」先程の「お客様スタッフ」、その全てに共通するキーワードがあります。それは「持ち寄り・おすそ分け」です。

「私のリレキ」は「講師の人生経験と知識」を、「ポットラック」は「料理・お茶・お菓子など、お家で余っているもの」を、お客様スタッフは「自分のできることを」、それぞれ少しずつ持ち寄って、おすそ分けする。そんな、やさしい気持ち、助け合いが、この「ほっと！HOT！Café」から地域に広がり、公民館が、地域住民が自然に集まる居場所になればいいなと考えました。ここまでが当時の説明となります。

さて、「ほっと！Hot！Café」は現在も継続しており、毎月第2・4火曜日に開催しています。

この写真は、今年の7月23日の様子ですが、夏休みということもあり子どもたちも遊びに来てくれました。

実は、昨年度から「片岡地域づくり活動協議会」に事業を継承し、現在は地域づくりの事業となっています。これにより地域づくりの補助金がありますので、そこからコーヒー・お茶代や地域人材への講師謝金など、Caféの経費を安定的に確保することができました。

運営は、生涯学習推進員・民生委員が中心ですが、お客さんがいつのまにかス

タッフになっていたり、元漫画家さんが、東京に住んでいた方らしいんですが、子どもに絵を教えたり、参加の輪がどんどん広がっています。

特に中核となって活躍されているのが生涯学習推進員さんです。この方はコーディネーターとしてポッチャ、ハンドベル、手話、ダンスなど地域人材を次々と発掘してこちらのカフェに招いたり、サークルに呼びかけ、演奏会を企画するなど活躍しています。

これは別なのですが、地域の介護サポーターさんの持ち込み企画です。元々は介護予防のための道具らしいのですが、この真ん中の赤い線で右チーム・左チームに分かれ、この穴にボールを多く入れた方が勝ちです。このときは小学生もいて、こんな感じで大変盛り上がりました。様々な立場の方が、自分の特技を持ち寄り、みんながそれを楽しんでいます。少しずつ「持ち寄り・おすそ分け」が地域に広がっていることを実感しています。ご清聴ありがとうございました。

なお Café 当日、月刊公民館から取材を受けました。当日の一部始終が YouTube にアップされています。興味がありましたらこちらの二次元バーコードからご覧ください。

以上、私からの説明です。ありがとうございました。

事務局： では、引き続き久留馬公民館の次長から、久留馬地区盛り上げ隊についてということで、二次元バーコードの付いた表紙を配り直したいという話がありましたので、お配りします。

久留馬公民館次長： 久留馬公民館次長です。訂正からすみません。久留馬地区盛り上げ隊の話だけではなく、先日新潟に研究大会で行ってききましたので、その辺の話もさせていただいて、盛り上げ隊と、他の話もさせていただきたいと思います。それでは事例発表に参ります。

事務局からも話がありましたが、先日、新潟の研究大会、通称関ブロということで、新潟の上越市に行ってきました。「ICT と公民館」という分科会で、当館の事例発表を行ってきたので、今日はその時に使ったパワーポイントのショートバージョンで話させていただきたいと思います。委員の皆様もその「ICT と公民館」という分科会に参加したというつもりでお聞き頂けると有難いと思います。

題は、ICT とかけまして、「いつでも ちょっとでも つながる公民館」ということで事例発表してきました。今回は審議会ということで、固くキッチリ話すところですが、いつもと同じしゃべり口調で行わせていただきます。なお、私は ICT の専門家でもなければ久留馬公民館は特に ICT に力をいれている館ということではなく、アナログ的なことも非常に好きな公民館だということをお伝えしておきたいと思います。

皆様にお配りした資料にこうした二次元バーコードが付いています。ICT の分

科会ということで、割と多く二次元バーコードを付けていますが、このシートの拡張資料というようなことで読み取っていただければと思います。例えばこちらの訂正でお配りした資料の二次元バーコードを読み取りますと、久留馬公民館の館内がわかる動画に飛びますので、後ほどご覧いただければと思います。よろしく願いいたします。

当日は久留馬公民館の ICT の事例を、開館してから行った順で3つ紹介し、最後に今後の展望としてまとめという形で4つの括りに分けて話してきました。先程話した通り、今回ショートバージョンということで、駆け足でお話させていただきます。足りないところがあれば、いつでも質問を頂ければと思います。それでは20分間お付き合いいただければと思います。

開館して最初に行った、SNSを活用した大学生による地域活性化事業「久留馬地区盛り上げ隊」の話をします。令和元年に新しく立ち上げた公民館なので、早く地域の拠点にならないかな、もっと地域の人に来てもらいたいなと思っていました。特に若い人に公民館に来てもらいたいということで、だったらいっそのこと若い人に企画立案してもらった方がニーズに合う物ができるのではないかと思います。

そこで、大学生に公民館の主催事業の企画立案を考えてもらうことをひらめきました。狙いは若年層の利用率アップ・若手の地域人材確保でした。子育て世代より少し若い人が公民館で活動することで、子育て世代の方も気になって参加して、巻き込まれるような形で公民館のサポーターとなってくれるのではないかといい見込みがありました。

早速、市内の高崎経済大学のボランティア募集窓口に企画書を持ち込みました。すると当時これを見て10人を超える学生さんが参加してくれることになり「久留馬地区盛り上げ隊」が結成されました。ちなみに、今現在は20人おります。

さあ、これから大学生らしい面白い事業をやろう！と、学生も私も色々なことを考えていたのですが、すべて白紙になって何一つ出来なくなりました。皆さんなぜかわかりますか。今年度6年目、令和元年開館です。そうです、コロナウイルスです。公民館事業はおろか学生と会うことすら難しくなりました。学生は、このまま何もできないのは非常に悔しいですということで、色々な事を考えてくれました。

考えた結果 非対面非接触なら感染拡大しないということで、SNSを使って何かできないですかね、と考えたのが、YouTubeを活用して地域の繋がりを形成していこうという「久留馬のくるっとまるっとチャンネル」でした。こちら簡単に説明しますと、盛り上げ隊の大学生達が久留馬地域の活性化や地域課題の解決になるような動画を考えてYouTubeにアップし、それを見た地域の方がご意見くれるんです。「この間は面白かったよ」とか「こういう時はどうしたらいいんだろう」というご意見に対してアンサーになるような動画を考えて、撮影してYouTubeに

上げてという、資料の矢印のようなぐるっというサイクルを地域の繋がりとして作っていけないか、ということです。

皆様にお配りした資料にも、二次元バーコードが付いています。こちらを読んでもらうと YouTube の動画に飛びますが、時間の関係もあるのですが一つだけ。例えば、「学ぼう 防災」。こちらはどういう動画かということ、当時コロナ真っ只中だったので、地域の人がもしこのコロナ禍で災害が起きたら、どこでどのように避難してどのような扱いを受けるんだという意見が来たんです。だったら、久留馬地区の避難所となっている久留馬小学校で実際に避難所体験をしてみよう、という動画がこちらに上がっています。後ほどご覧になっていただければと思います。

現在は、YouTube から Instagram になっています。盛り上げ隊の大学生が話し合った結果、若年層ターゲットの活動であれば、今は YouTube より Instagram の方が効果的だろうということで、昨年度の夏頃から Instagram に移行しました。もし委員の皆様でフォローしていない方がいらっしゃいましたら、こちらの二次元バーコードからフォローしていただくと大学生が喜びますので、ご協力をお願いします。

集うことが難しかったコロナを経験したからこそ、盛り上げ隊もやはり集うことの大切さをわかったんですね。コロナが5類に移行してからは、盛り上げ隊は対面での活動も積極的に行っています。

こちらの写真は、地域の夏祭りにこういったフォトブースを出して、そこで撮った写真を、先ほどの Instagram にアップして、地域の魅力を発信していこうという取り組みです。ICT と対面のハイブリット型のようなイメージで作っております。

ハロウィンパーティーもやりました。5類を過ぎた頃からだんだん YouTube など色々な活動が実を結んで、写真を見ていただいても分かるのですが、久留馬公民館にもだんだんと若い人にも来ていただけました。先日文化祭が一昨日、土曜日あったのですが、若い方がたくさん来てくれました。有難かったです。盛り上げ隊の最後はですね、今後 ICT を使ってどんなことをやっていくかというお話をさせていただきます。

今後、「ギガスクール端末で文化財巡り」というのをやります。これは本当に最近始まったばかりの取り組みですが、昨年度、過去に審議会の皆さんから、運営推進委員の中に部会があるんだから部会を活用したらどうかというお話があったかと思いますが、じゃあ久留馬でも部会を作ろうということで、地域おこし部会を作ったんですね。その地域おこし部会が昨年度、地域の文化財マップを作ったんです。その文化財マップに載っている文化財の解説動画を盛り上げ隊が作って、それをギガスクール端末でいつでも見られるようにして学校の授業で活用してもらおうという取り組みですね。

先日、学校長・盛り上げ隊・公民館の三者打合せが終了し、今後いよいよ動画の作成に入って行く予定です。委員の皆様ご存知の通り、久留馬はものすごく勾配のきつい山間地なので、小学生が、特に十文字の地区等に徒歩や自転車で行くことはとても不可能です。もちろん実際に現場に訪れるという満足度には及ばないと思いますが、こちらであればいつでも机から視聴できるので、天候や交通事故の心配もないんですよ。なのでぜひ、学校で活用していただければなと思っています。まさに「いつでも 地域の事を 机から」ということで、こちらも ICT ですね。

盛り上げ隊の話はこの辺で終わりにして、それ以外の話もさせていただければと思います。

2つ目に分科会で発表してきた事例は、地域の講師と行った Zoom を活用した音楽レクリエーション講座「うたと音楽の力」というものです。これは、各会場を Zoom で結んで、その他の会場と音楽でアプローチして一緒に歌ったり踊ったりしながら、楽しみながらフレイル予防をする講座です。高齢者の多い久留馬ですから、やはりフレイル予防とか、まず Zoom を体感してもらいたい、感染拡大防止に努めながら何とかつながりを作っていきたい、というところが大きな狙いでした。

きっかけは、先ほどの盛り上げ隊の YouTube の配信が始まった頃の事です。先程の盛り上げ隊との打ち合わせはコロナ真っ只中でしたので、大学生が当たり前のように「打ち合わせは Zoom でお願いします」と言ってきたんです。私、当時 Zoom なんてやったことが無かったのですが、できないと言えないので「いいよ」と言ってしまったんです。実際には大学生に手取り足取り教えてもらいながら Zoom を使って打ち合わせを行いました。

だいたい慣れて、Zoom って便利だな、これで何か事業が出来ないかな、と思っていた矢先、地元の音楽講師の先生も、オンラインを使って音楽で何か楽しい事ができれば、という話を公民館にもらったんです。意気投合して、こうしたことをやろう、ということで考えたんです。せっかくやるなら公民館だけではなく、他の所を巻き込もうよということで、今回お話をさせてもらうのは、地元の榛名高校とやった時の事です。榛名高校は、生活デザインコースというクラスが有り、そちらで福祉を学ぶクラスが有るのですが、コロナ前は校外に出て高齢者の方に色々な活動を行っていたんだそうです。それがコロナになってしまい、活動することが出来なくなったそうです。その時に久留馬公民館から榛名高校へこの話を持って行ったので、オンライン上とは言え、公民館で集っているシニアの方向けに高校生が何か行えるのは非常に有難いとのことで、すごく感謝していただきました。

二次元バーコードから一緒に行った講師の先生のインタビューもありますので、後ほどご覧ください。

これがその時の写真です。高校生が校歌や今高校生の中で流行っている今どきの曲に合わせて簡単なダンスを考えて、公民館の人達に教えてくれるんです。それを高校生も含めて、同じ曲で同じタイミングで、離れた会場同士で一緒に踊って楽しみながらフレイル予防をするという講座です。

残念ながら榛名高校との時は画像を取っていなかったのですが、別の回の動画を見られるように整えておりますので、後ほどご覧下さい。これはフラメンコの先生が簡単な体操を教えてくれた時の会なので、是非ご覧いただければと思います。本当はこれも見ていただきたかったのですが、時間の関係もあり次に行きます。

「うたと音楽の力」や大学生との打合せで Zoom に慣れたので、他の自治体と連携して行ったオンライントレーニング「白銀の世界へようこそ」というものをやったんです。狙いは、当時ステイホームという言葉があったと思いますが、そのコロナストレスを軽減したいなと思いました。そして、高齢者に Zoom を体感してもらいたい。あとは、今までにない学習機会の提供をしていきたいなと思いました。

今までにない学習機会の提供、これはですね、どちらかという私にとってのチャレンジだったのかなと思います。何がチャレンジだったかという、この講座は先生が遠隔地からリアルタイムで行う講座です。

通常であれば久留馬公民館に先生が来てくれて学びを教えてくれるのですが、この講座は久留馬公民館には誰も先生がいないんです。講師は遠く離れたみなかみ町の雪山の中にいるんです。その雪山をプロの登山家の講師が1時間半かけて天辺まで上りながら、登山の魅力や自然の魅力、環境の大切さなどを教えてくれる講座です。先程、チャレンジと言いましたが、この講座が出来れば将来的には県外や国外などにいる時間や距離で今まで成立できなかった優秀な先生の講座もできるのではないかと考えていました。これを成立させるというのが、私にとってのチャレンジだったと思います。

これが実際のその時の写真です。参加者の皆さんは「ステイホームでどこにも行けなかったけど疑似旅行ができた」などと、だいぶ喜んで帰ってくれました。こちらが先生です。「久留馬の皆さん見えるかい、今から一時間半かけて山を登っていくよ、皆さん温かいところにいていいね、こちらは雪山だから寒いんだよ」なんて言うんです。そして雪山の中に入って行って「皆さん見てください、何の動物の足跡かわかりますか」とクイズを出してくれたり「この木が見えますか、今、自然の環境が大変なことになっているから、木がこんなふうになっちゃうんだよ」という話をしながら山の天辺まで登っていくんですね。本当に楽しい講座でしたが、色々と考えさせられる講座でした。みなかみ町の窓口になってくれた生涯学習担当の職員の方のインタビューや参加者のインタビューが見られますので、後ほどご覧になっていただければと思います。

時間もあるので、そろそろまとめに入ります。分科会では、このまとめの中で「心豊かな活力ある人づくり・地域づくり」ということで、皆様ご存じの高崎市の公民館の重点テーマだと思いますが、様々な学習機会を提供し個人の能力開発を行う「人づくり」というのも重要かと思いますが、個人的には、学習とかいろいろなことに参加してくれた参加者同士が交流を図り、それが地域づくりとなっていくというところに非常に重きを置いています。

ですので、先ほど説明した ICT の三つの事例も、個人個人で完結しないように、あえて集団を ICT でつなげたり、対面とのハイブリッド型の様な物にこだわって行っています。

分科会ではいい話ばかりでなく、課題とか難しい話もしてきました。やはり機材など、ここは予算ありきの部分が大きいのかなと思いますが、分科会に参加された方は、スキルの部分を一番心配されていたかなと思います。ただ、私も分科会で話してきたのですが、決してデジタルが得意な人間ではなく、アナログな人間です。私が盛り上げ隊の高経の大学生に面倒を見てもらったように、自分でできないことは誰かに頼んだり、誰かを巻き込んだりして成立させたらいいのかな、という話をしてきました。とりあえず、やってみれば何とかかなら思いました。ある意味、誰かに助けてもらったり、面倒見てもらったり、やってもらったりというのは、公民館らしいというか、公民館の強みなのかなと思います。私が公民館現場で ICT を活用する上で一番難しいと思うのが、個人個人で完結しない様に進めていくところだと思いました。

最後に、久留馬公民館では今後 ICT を活用してこんなふうにやっていきたいというのを3つに分けて最後分科会で述べてきました。

1点目は、距離や時間の制約を超えて、様々な団体との連携を取ったり、質の高い講師の確保をしていきたいと考えています。

2点目は、ICT を活用して参加への障壁を下げ、参加したい人を取りこぼさない、参加のユニバーサルデザイン化というものを進めていけたらと思っています。例えば、久留馬は高齢者が多いので、車に乗れなくなったら公民館に行けないよという人が結構多いです。山もきついので。なので、そういう時に ICT という技術を使って何かつながりを担保できたらいいなと思います。

最後3点目は、ICT は今の若い方の得意分野だと思うんです。若い方がその得意分野で「いつでも ちょっとでも 手伝える」形で、地域参加をしてもらえたらと思っています。分科会で気付いたのですが「いつでも ちょっとでも 手伝える」これも偶然にも ICT ですね。ちょっとびっくりしました。

本当に最後です。最初の画面に戻りました。久留馬公民館は「いつでも ちょっとでも」ではなくて、将来的には「いつでも 地域と つながる」ICT に発展させていければと思っています。

本日は分科会の資料の内容を基に発表させていただきましたので、ちょっと審

議会の皆さんと誤差があったかと思いますが、最後までお聞きいただきありがとうございました。

事務局： 会長・副会長から提言（案）に掲載する事例を紹介して欲しいという依頼を受けまして、ちょうど久留馬公民館次長の関東での事例発表と重複する部分があったので、少しはみ出してしまう部分があったかと思いますが、今回審議会の皆様にも事例紹介ということで聞いていただきました。それでは、会長お願いします。

会長： はい、今、クリエイティブでアグレッシブなお2人の次長からの事例発表がありました。これに関してご意見とか、ご質問とか、ご感想などありましたらお願いします。

観光ガイドの会選出委員： 最初に上郊公民館次長の事例発表からチームのメンバーがいたということで、片岡・豊岡・金古南と3館あったと思いますが、他の豊岡と金古南でも同じような形でこういった活動を進められたのかなと思いました。

会長： ありがとうございます。

上郊公民館次長： この時チームが片岡・豊岡・金古南足門の主事3人でやっていますが、この3人でチームを組みまして、この「片岡ほっと！Hot！Café」を作り上げました。ですので、実験的な取組みでもあり、1年間をかけて実証と、活動を行うというものでして、3館全部でやるのは難しいものですから、片岡公民館を実証実験の会場としてやらせていただきましたので、今も片岡公民館で実施していますが、他の2館では実施していないような状況です。

観光ガイドの会選出委員： わかりました。どうもありがとうございました。

会長： 別件でございましたら。よろしいでしょうか。これに関して、もしご意見などありましたら、直接それぞれの公民館に連絡するなどご対応していただけたらと思います。よろしく願いいたします。

それでは、提言に関わる事例の紹介については、以上となります。議事進行はここまでといたしますので、事務局にお返しします。

報告・連絡事項

- 事務局： （１）令和６年度高崎市公民館運営審議会日程について
（２）前回審議会の会議録及び議事録について

閉会

事務局： 以上で、第６回 高崎市公民館運営審議会を終了させていただきます。皆様、お疲れさまでした。ありがとうございました。